

五島福江島活動報告書



一般社団法人 BC-ROBOP 海岸工学会

文責：森心太

内容	活動日	場所	参加メンバー	活動内容
五島自然塾主催の地域の海岸清掃	2021年12月27日	五島市岐宿町八朔花海岸	主催永治克之様、株式会社いであ様、森、他30名	海岸に流れ着いた漁具や発泡スチロールなどを市から配布された専用のゴミ袋に入れて清掃活動を行った。
五島自然塾主催の地域の海岸清掃	2021年2月23日	五島市岐宿町浜田海水浴場	主催永治克之さま、宮崎、森、他30名	海岸に流れ着いた漁具や発泡スチロールなどを市から配布された専用のゴミ袋に入れて清掃活動を行った。
環境省主催の野鳥の調査	2021年3月15日	五島市岐宿町八朔花海岸	主催半田様、上田様、出口様、米様、森、宮崎、他2名	五島近辺の海に生息する野鳥の調査を船の上から行った。
五島の海岸に流れ着くペットボトルの回収	2021年3月17,18日	五島 太田海岸（2021年3月17日）高浜海岸（2021年3月17日）八朔花海岸（2021年3月18日）三井楽柏海岸（2021年3月18日）	森、宮崎	五島市の漂着ペットボトルの現状を調べるため、また2008年の清野先生の福江島での4地点の研究と比較するため、2021年3月17、18日に五島市福江島の4海岸のペットボトルを100本ずつ抽出した。
八朔鼻で外来植物の調査と回収	2021年3月20日	五島市岐宿町八朔花海岸	森、宮崎、他30名程度	野焼きによる被害を受けた県指定天然記念物「五島八朔鼻海岸」の指定地内において、焼け跡を含む広い範囲で外来植物のオオキバナカタバミの群落が広がっており、貴重な海岸植物が危機に瀕している状況にある。そこで、外来植物の駆除を実施し、天然記念物の保護を図るため、長崎大学中西弘樹名誉教授のご指導の下、オオキバナカタバミを球根ごと手作業で抜き取る作業を行う。

五島自然塾主催八朔花海岸クリーン

内容：五島自然塾主催の地域の海岸清掃

活動日：2021年12月27日

場所：五島市岐宿町八朔花海岸

参加メンバー：主催永治克之様、株式会社いであ様、北九大 森心太、他30名

活動内容：海岸に流れ着いた漁具や発泡スチロールなどを市から配布された専用のゴミ袋に入れて清掃活動を行った。

○感想

五島の八朔鼻で海岸清掃を行ってきました。平均年齢が高めのスーパーおじいちゃんたちが20人近くあつまり、岩場でけがをしないかヒヤヒヤしながらもトン袋をテキパキ運ぶ姿にプロ意識を感じました。海岸清掃を行う手順を勉強するよい機会になりました。想像していた以上に運搬が大変です。どのようなゴミが多かったのか。一番目立ったのは、発泡スチロールです。トン袋16袋くらいの量があつまりました。おじいちゃんたちが袋を引きずりながらトラックまで運ぶ姿に衝撃を受けました。漁具も多く、10人がかりでワッショイと運びました。若い世代がどうすれば環境に興味を持ってくれるのか。自分たちも活動を楽しみながら、参加する皆さんに楽しんでもらう方法を考えたいとおもいます。

○写真



トン袋を運ぶ永治さん



浦先生のあいさつ



株式会社いであ様の運搬機



ゴミの集まり

五島自然塾主催 岐宿浜田海水浴場ビーチクリーン

内容：五島自然塾主催の地域の海岸清掃

活動日：2021年2月23日

場所：五島市岐宿町浜田海水浴場

参加メンバー：主催永治克之さま、九大 宮崎幸汰、北九大 森心太、他30名

活動内容：海岸に流れ着いた漁具や発泡スチロールなどを市から配布された専用のゴミ袋に入れて清掃活動を行った。

○感想

五島自然塾さんのビーチクリーンに参加してきました。最近なかなか外に出ることが出来ませんでした。実際現場に出てみると、やっぱり現場でしか感じられないことがたくさんあると思いました。特に臭いについては、現場でしか感じるものの出来ない問題だと思います。ゴミの量もとても多く、改めて現実を見せられました。しかし、五島の自然はとても美しいし、自慢できる場所がたくさんあるので、もっと勉強してこれからも関わっていきたいです。

○写真



漂着したゴミ



集まったゴミの山



大量のマイクロプラスチック



浜田海水浴場の綺麗な海

環境省主催 海の上の野鳥を調査

内容：環境省主催の野鳥の調査

活動日：2021年3月15日

場所：五島市岐宿町八朔花海岸

参加メンバー：主催半田様、上田様、出口様、米様、北九大 森、九大 宮崎、他2名

活動内容：五島近辺の海に生息する野鳥の調査を船の上から行った。

○感想

本日の海鳥調査は船に乗り五島の海岸沿いを見て回りながら実施されました。残念ながら目的だったカツオドリを確認することはできませんでしたが、代わりに人の手の回らない海岸のゴミを多数確認することができました。海の上から見える白い物体の山が発泡スチロールであることが一目でわかるくらいの量が積もっていました。私は、この調査を通して、海岸には今も漂着ゴミが流れ着いていて、将来海鳥は岩の上ではなくゴミの上で羽を休めることになるのではないかと思います。この現状をしってもらうためにまずは島の人たちに向けて環境の交流会を行っていきたいと思いました。

○写真



ホゲ島



五島層群の一部



立島



4
鳥の糞

五島の海岸に落ちているペットボトル 400 本回収

内容：五島の海岸に流れ着くペットボトルの回収

活動日：2021 年 3 月 17, 18 日

場所：五島 太田海岸（2021 年 3 月 17 日）高浜海岸（2021 年 3 月 17 日）八朔花海岸（2021 年 3 月 18 日）三井楽柏海岸（2021 年 3 月 18 日）

参加メンバー：北九大 森、九大 宮崎

活動内容：五島市の漂着ペットボトルの現状を調べるため、また 2008 年の清野先生の福江島での 4 地点の研究と比較するため、2021 年 3 月 17、18 日に五島市福江島の 4 海岸のペットボトルを 100 本ずつ抽出した。

○感想

五島列島福江島の 4 つの海岸でペットボトルを回収しました。それぞれで 100 本ずつ回収する調査で順番に、太田海岸、高浜海水浴場の海岸、八朔鼻の海岸、柏の海岸です。高浜と太田海岸はペットボトルがあまり見つけられなくて 100 本探すのにものすごく時間がかかってしまいました。反対に八朔鼻と柏海岸はものの 10 分程度で回収し終わり、島の北側にある海岸のゴミの凄まじさに驚きました。（高浜も端の方に集中して漂着していました。）海流に乗って軽いものがどンドン運ばれてくる状態です。岩場というよりは、陸の植物に突き刺さっていました。植物がストッパーの役割を果たしていて、風に飛ばされた漂着ゴミを受け止めているのだと思います。発泡スチロールがとて多く、もはや緑が見えなく白い植物でした。もちろん日本のも流れ着いていますが、中国や韓国のゴミも見受けられました。高浜は、正面だけ見たらきれいですが、崖の方の端が深刻な状況になっていました。柏の方は、漁具が特に多かった印象を受けました。調査している際に、同年代くらいの観光客みなさんが高浜で遊んでいました。多分春休みで五島に来ているのだと思います。彼らがものすごく楽しそうにしているのを見て、この景色をずっと見られるように自分たちが海岸を守っていかなければならないと思いました。

○写真



4 つペットボトルの袋



三井楽柏海岸の様子

「五島八朔鼻の海岸植物」外来植物オオキバナカタバミの駆除作業

内容：五島市教育委員会生涯学習課主催の外来植物駆除作業

活動日：2021年3月20日

場所：五島市岐宿町八朔花海岸

参加メンバー：北九大 森心太、他 30名程度

活動内容：野焼きによる被害を受けた県指定天然記念物「五島八朔鼻海岸」の指定地内において、焼け跡を含む広い範囲で外来植物のオオキバナカタバミの群落が広がっており、貴重な海岸植物が危機に瀕している状況にある。そこで、外来植物の駆除を実施し、天然記念物の保護を図るため、長崎大学中西弘樹名誉教授のご指導の下、オオキバナカタバミを球根ごと手作業で抜き取る作業を行う。

○感想

オオキバナカタバミは見た目が黄色で綺麗な色をしていますが、侵食力が強く次々と自分の領域を増やしてもともと生えていた植物の領域を奪っていました。八朔鼻海岸には五島の海岸植物がたくさん生息していて天然記念物に指定されている大変貴重な場所です。外来植物によって島にもともと生息していた植物の多様性が失われてしまうと考えると恐ろしいです。今日は30人がかりでそんな外来植物を根絶やしにしてきました。帰り道にふと、外来植物も植物なので生存競争に負けないようにしているのだろうなとも思いました。植物もそうなのですが、やはり意識せずとも目に入ってしまうのが漂着ゴミです。特にマイクロプラスチックが作業中邪魔をしてきました。今回のオオキバナカタバミを駆除するために根っこの球根をとらなければいけないのですが、発泡スチロールのクズが土と混じっていてよくわからなくなる箇所がありました。本当に分かりづらかったです。ほかにも2日前にはなかったビール缶が海岸に大量に捨てられていたので、ものすごくショックを受けました。八朔鼻の海岸は、多様な海岸植物と透き通った青い海が臨める素敵な場所です。いつか何も邪魔されることのない場所になるようにしたいです。

○写真



オオキバナカタバミ



駆除作業を行っている風景